

金 度 源

(理工学部)

遊べるまち×地域×文化づくり



帰帆島公園の更なる活用に向けた水上アクティビティの社会実験様子

文化遺産とまちづくりの研究に取り組んできて15年ほどになります。その中で、研究成果の社会実装や実践を目指して、アクションリサーチと呼ばれる、研究者自身が社会課題を抱えている当事者と共に問題解決に臨む研究活動を続けていると、どの地域やまちに必要なことは「そこにあるコミュニティがまちに関われるようになること」が、何よりも大事であると気づきました。

最近の研究では、同学部の阿部俊彦准教授と合同で滋賀県内の公共空間に関わることが多くあります。日本における公共空間は、色々なルールを付けてしまった故に、「とても使いづらい+静かにしないとならない」ところになってしましました。この問題を解決するために、公園の中でキャンプやイベントを開催するなど、その場所だからこそアクトビティを社会実験として実施しています。

公共空間において子どもも大人も自由に遊ぶことによって、やっとその空間をみんなで使う真の意味を理解して頂けます。また、このような空間を大切にする地域と文化を育てて行くのが今の地球環境時代に求められているものと考えております。これからも様々なアウトドアアクティビティを通して、まちと地域への関わりをつくるコミュニティデザインを実践していきたいと思います。



所 属

理工学部 環境都市工学科

研究テーマ

- コミュニティデザイン手法の開発と実践
- 歴史文化を活かすまちづくり
- 災害に強いまちづくり

キーワード

コミュニティデザイン、アクションリサーチ、防災まちづくり、文化遺産とまちづくり、まちで遊ぶ

まちで遊ぶことの実践研究

1) 研究室の月1まちゼミ

月に1回は研究室のゼミ活動としてあるまちを訪れています。研究室の学生らはグループに分かれて、決められた時間内にまちを調べて、感じられた課題やそれに対する対策のアイデアをまとめます。その際に大事なことは「まちを歩く」ことです。



2) びわ湖文化公園での社会実験

びわ湖文化公園の利用活性化に向けて、公園内のキャンプ体験を実施しました。広域避難場所でもある公園であっても園内では焚き火ができる制限の中で、大学生が楽しめる防災キャンプを社会実験として実施しました。



3) 帰帆島公園からの水上アクティビティ実践

現状では船の乗り入れが不可能な帰帆島公園において仮設の乗り降り場をつけ、地域住民達が楽しめるカヌー体験を社会実験として実施しました。

